

新米人事主任

茂枝萌子の

奮戦記

登場人物

人事主任
茂枝萌子（しげえだ もえこ）
社長
田中来栖（たなか くるす）
経営コンサルタント
藤川 雅（ふじかわ みやび）

横浜のモバイルコンテンツ制作のベンチャー企業、株式会社ネットクールズを舞台に、社長の田中から突然人事主任に抜擢された茂枝萌子が、コンサルタントの藤川の助言を受けながら人事改革に取り組んでいく成長ストーリー。

story 1 萌子、ある日突然の抜擢！

藤田経営研究所 代表 藤田 雅三

story_1 萌子、ある日突然の抜擢！
story_2 萌子、人事改革に着手！
story_3 萌子、組織設計をどうする？
story_4 萌子、人の何をどう評価する？
story_5 萌子、給与について熟考す！
story_6 萌子、自らの目標を決める！

● 希望の会社に転職したが…

ゴールデンウィークの明けた5月初旬の月曜日。モバイルコンテンツ制作で急成長中のベンチャー企業、株式会社ネットクールズ（本社横浜市）にこの4月から転職してきた茂枝萌子（しげえだもえこ、24歳）は、朝からデスクに着くなりぼんやりと窓の外を眺めていた…。

大学を卒業して事務機メーカーに就職。経理部に配属されたものの、先輩の御局様と折が合わず「こんな会社すぐに辞めてやる！」と思いつつも、せっかく初めて就職した会社で何も学ばずに転職してしまうことが悔しくて、この3年間ずっとガマンを続けてきた。ようやく経理部の仕事も一通り覚えてきたところで、以前から関心のあった会社ネットクールズに思い切って転職を果たしたというわけだ。

ネットクールズは5年前に設立された勢いのあるベンチャー企業で、その社風は自由闊達との噂を聞いており、御局様との人間関係

にほとんど嫌気がさしていた萌子にとっては、この上なく魅力的な会社に映っていたのだった。

「あーあ、ようやく御局様とサヨウナラ、希望に燃えてネットクールズに転職してきたけど、今度は人事部に配属されるなんて。せっかく覚えた経理の経験は活かさないし、また一から出直しねえ」

誰に話しかけるでもなく萌子がポヤいていると、社長の田中が少し急いだ様子で近寄ってきた。

「おはよう、もえもえこ君。ちょっといいかな？」

「社長、茂枝（もえ）ではなく茂枝（しげえだ）です。いいかげん覚えてくださいよ～」

「ああそうだったね。でも茂枝（しげえだ）君は、ちょっと呼びづらいな。萌子（もえこ）君というのなんだし、やっぱり萌（もえ）君にしよう。名前のほうをとって萌（もえ）君ということで」

「まあどっちでもいいですけど、何かご用でしょうか？ 急いでいらっしゃるようですけど…」

「ああ、少々困ったことが起き

てね。ちょっとミーティングルームまで来てくれるかな」

社長の田中はそう言うと、足早にミーティングルームへ向かい、萌子もすぐにその後を追った。

● 社長のムチャ振り…

ミーティングルームに入ると田中は萌子にその辺の椅子に座るように勧め、話を切り出した。

「実はね、昨日のことなんだが人事主任の前村君が辞表を持ってきて、突然辞めさせてくれと言ってきたんだ」

「え～っ！前村主任が？ そういえば今日は朝から姿を見かけないと思っていましたけど…」

「そうなんだ、本来であれば就業規則にも書いている通り、14日前には届け出てもらうのがスジだと思うんだが、辞める気になっている人間をムリに引き留めてもロクなことにはならないから認めたんだよ。知っての通りウチは急成長中のベンチャー企業といわれているが、内部の経営システムはまだまだ脆弱だ。経営システムとい



藤田雅三（フジタ マサカズ）広告会社ディレクターを経て、スーパーマーケット、食品卸業、惣菜弁当製造業3社グループ企業の常務取締役として新規事業開発等に従事。企業経営、事業承継、廃業を経験し、その後、戦略・業務系コンサルティングファームのシニアコンサルタントとして上場企業の業務改善、品質改善プロジェクトに従事。また、人事系コンサルティングファームにて人事制度、賃金制度構築・運用を支援。現在、藤田経営研究所代表として中小企業の業績向上、再生等の支援を行っている。中小企業診断士。専門分野は流通小売業、飲食業、サービス業の戦略、マーケティング、業務改善。また業種問わず組織・人事マネジメントの支援を行っている。
公式サイト▶<http://www.f-keiei.biz/>

うのは、企業の組織構造・事業・人事・財務なんかのマネジメント、PDCAを回す仕組みのことなんだが…。僕は、経営システムを強固なものにしていくには、やはり社員のモチベーションや成長が重要なカギになると思っている。そこで、まずは彼に人事改革の音頭を取ってもらいたいと考えていた矢先のことだったんだ」

「そうだったんですか…。で、私がここに呼ばれたのは…？」

と恐る恐る萌子が聞くと、田中は少し言いにくそうにしながら口を開いた。

「うん。この状況ですすでに察していると思うけど、もともと人事部には主任の前村君と萌君の2人しか専任者がいなかったわけで、その前村君はもういない。そこで本日付で萌君を人事主任に任命する。わが社の人事改革にさっそく着手してほしい」

「ええーっ！」

突然の田中社長のムチャ振りに萌子は開いた口がふさがらなくなった。

● 密命を受けた訪問者…

「あ～あ、どうしよう…いきなり人事主任に抜擢されたのはうれしいけど、1人で人事改革なんて一体どうすればいいのかな？」

翌日、萌子が1人で悩んでいるとノックの音とともにオフィスのドアが開き、スーツ姿の人物が入

ってきた。

「失礼します。藤川と申しますが、人事主任の“もえもえこ”様はいらっしゃいますか？」

「あ、う、人事主任は私ですが、“もえもえこ”ではなく“しげえだもえこ”といいます…」

「そうですか、失礼しました。田中社長がそうおっしゃっていたものですから」

そう言いながら2人は名刺交換を済ませると、すぐ横のパーティションで仕切られた打ち合わせブースで話を始めた。

訪問者の名前は藤川雅（ふじかわ みやび）という中小企業診断士で、田中社長が会社の経営システムづくりを推進するために呼んだ経営コンサルタントであった。

「初めまして、藤川雅といいます。田中社長とは行きつけのスポーツジムで親しくさせていただいています。事業の成長に伴い、会社の基盤固めをしていきたいということでご支援させていただくことになっていたのですが、何でも以前の人事主任が突然お辞めになったとのことで、急ぎよ来てほしいとの連絡を受けて参りました」

「そうなんです。社長からは何も聞いていなかったもので…」

と言い終わる間もなく、社長の田中が外出から帰ってきて声を掛けた。

「やあ、ごめんごめん、藤川さんが来るまでには戻ってくるつも

りだったんだが、遅くなってしまったよ。早速だが本題に入ろう。すでに藤川さんにも、萌君にも話している通り、わが社は今後の成長を見据えて経営基盤をしっかりと構築したいと考えているんだ。一口に経営基盤といってもやらなくてはならないことは多岐にわたる。それを着実に進めていくには、やはり自立性のある人と組織の成長がカギになると思うんだ。どうでしょう？ 藤川さん」

「そうですね。田中社長のおっしゃる通り、経営システムを整備していくということは、すなわち人と組織が成長していく仕組みを整備するといってもいいでしょう。このことは、茂枝さんにもう少し詳しく説明したほうがいいでしょうか？」

「あ～藤川さん、お願いします。昨日から人事改革とか、経営システムとか、何の話だか私にはさっぱりなんですけど…。あっそれと、“もえちゃん”とか“もえさん”でいいですよ。誰も“しげえださん”なんて呼ぶ人はいないので」

「そうですか。では萌さん、“経営システムと人と組織が育つ仕組み”について私の考えを少々お話しますね」

そう言うと藤川は資料を取り出し、田中社長と萌子の前に広げた。

「藤川さん、この図表は…？」

(to be continued…)